

「そしゃく」を知ると、 「ソーシャル」が見えてくる。

データでつなぐ、口と社会。

リュウ チャンチャン

劉 暢暢

北海道大学 大学院歯学院
歯科公衆衛生学教室



未来社会のあるべきかたち

- ◆健康格差のない社会
- ◆より良い食生活をすべての人へ
- ◆口腔からウェルビーイングを支える

研究が目指すもの

一人ひとりのデータから、多くの人々の健康を読み解く。
口の健康を通して、疾病予防と健康増進に貢献する。

研究の流れ

先行研究の確認

- ◆歯周病と肥満には関連があることが報告されている。
- ◆早食いなどの食行動も肥満と関連することが知られている。
- ◆口腔健康状態の悪化は、食物選択や咀嚼行動の変化につながる可能性がある。



仮説構築

口腔健康状態・咀嚼行動・全身健康
はどのように関連しているのだろうか

独立変数
(口腔健康状態)

データ解析

研究目的に合わせた統計モデルを構築し、関連する要因を考慮しながら解析を行います。

共変量
(年齢、性別など)

統計モデル

考察・解釈

- ◆なぜこの結果になったのか？
- ◆先行研究と一致しているのか
- ◆社会にどのような意味があるのか？

食材の相性
(交互作用項)

結果変数
(全身健康)

主役となる食材（独立変数・結果変数）の味を正しく知るためには、適切な調味料（共変量）が欠かせません。
主役となる食材同士（交互作用項）の「組み合わせ」も、料理の味を左右する大切な要素です。

新たな研究テーマ

「食べる」ことは、空腹を満たすだけでは終わりません。
よりよく食べ、より健康に生きるために、私たちの研究はこれからも続きます。